



<CAM ベトナム・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2019年12月12日

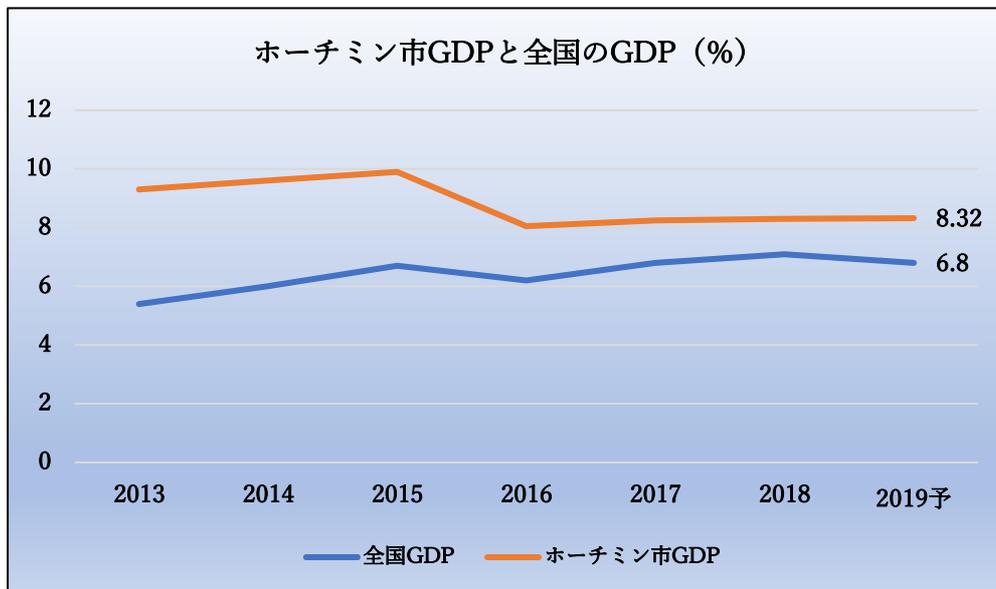
ホーチミン市の域内総生産 (GDP)

前年同期比+8.32%の見込み

ベトナム最大の都市ホーチミン市の2019年の域内総生産成長率は+8.32%と、前年の+8.3%を上回ると見込まれており(ベトナム・ホーチミン市人民委員会)、全国GDPを上回る高成長を維持している。

ホーチミン市の経済規模はベトナム経済全体の約24%を占め、同国経済を牽引している。商品やサービスの(2019年予想)売上高は+12.1%の伸び、観光客数は+14%(850万人)の増加、観光収入も+14.5%の伸びが予想されている。

ジェットロによればホーチミン市の一人当たりGDPは既に5,318ドル(2015年)を越えており、消費の拡大が顕著である。2014年1月にはイオンが進出、今年12月6日にもユニクロが第一号店を開くなど、消費・小売り関連の日系企業の進出も加速化している。



出所：ジェットロ、ホーチミン市のデータを基にキャピタル アセットマネジメントで作成

以上